

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名 ASIS

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	個室もあり、落ち着いて過ごせる広さがある	プログラムの人数に合わせて、部屋を入れ替えている。
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	0%		送迎や個別対応が増えても、支援が適切に行えるように配置するようにする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	50%	50%		部屋の入口の段差は、マットなどで少なくしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	0%	毎朝ミーティングをしている。	日々のミーティングや話し合いを通して、PDCAを実行していくようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	17%	17%		今回が1回目である。今後は定期的に評価を行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0%	50%	50%		まだ1回目のためできていない。今後は定期的に評価を公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	83%	17%	他事業所からの見学や研修受け入れを行なっている。	課題が見つかった場合は改善努力をしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	ネットで情報収集し、参加できるものには参加している。	研修の内容は、毎朝のミーティングで共有している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	利用児童に合わせて、プログラムを考えている。	グループで取り組めるものと、個別対応が向いているものを使い分けている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	33%	17%	土曜日などは運動など、普段できないものを取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	毎朝ミーティングをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	0%	気づいた点の共有は、その日の終わりにできている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%	0%		モニタリングの時期は、システムを使い、漏れないように注意している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	33%	67%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	67%	17%	17%	児童やケース別に担当者を決めている。	実際に、学校での担当者会議に担当者が出席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	0%	児童だけでなく、保護者からも情報を得ている。	児童別に通所時刻をボードに記載し、来れていない児童がいる場合は、連絡を入れるようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	67%	17%		医療的ケアが必要な児童はまだいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	33%	33%		対象児童が少ないが、必要であれば、積極的に連携をとっていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	17%	50%	33%		まだ移行した子がいないが、情報提供などの支援は行う。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	50%	17%		今後、研修に参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	33%	67%		今後、活動の中に取り入れていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	33%	50%		社会福祉協議会や、親の会などに参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	0%	システムを用い、毎日全員の児童の様子を伝えている。	共通理解までの時間は持っていないが、日ごろから気になることは伝えるようにしている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	50%	50%		外部で行われているPTの研修の案内などを積極的にしていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%	0%		管理者、代表が行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	送迎の際は、できるだけ保護者と話をするようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	17%	0%		1回開催済み。年間3回開催する予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	67%	33%	0%	電話だけでなく、LINEなどでつながることで、苦情などを受け入れる体制を作っている。	適切な対応がとれるよう、職員一同、日々勉強していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	67%	33%		できていない。今後計画していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	67%	33%	0%	独自のマニュアルを作成し、職員にも周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	33%	0%	67%		1度行ったが、管理者しか参加できていない。次回は全員で参加できるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%	0%	責任者が研修に参加している。	研修内容の共有が十分できていないので、時間を作って行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	83%	17%		研修内容の共有が十分できていないので、時間を作って行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	33%	33%	33%		該当の児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	33%	33%	33%	ファイルを作って保存している。	1件あったが、共有だけで、事例集としては保管できていない。早急に作成する。